

「税についての作文」入賞作品

問い合わせ先 税務課住民税係(32)3126

全国納税貯蓄組合連合会ならびに国税庁では、納税について理解を深め関心を持ってもらうため、毎年、中学生を対象に「税についての作文」を募集しています。

今年度、佐久地域の応募の中から、御代田中学校3年の内堀拓哉さんが「御代田町長賞」を受賞しましたので、その作文を紹介します。



御代田町長賞を受賞した内堀拓哉さん

「社会を支える税金」

御代田中学校3年 内堀 拓哉



僕は、高校生まで安心して暮らせると税について勉強してわかりました。

なぜかという、御代田町のことも福祉医療費給付制度は、高校卒業まで、一月五百円で医者にかかることができ、子供の頃は病気になる、けがをしたりすることが多いのでとても助かる制度です。

義務教育では教科書は無償で提供され、授業料もかかりません。高校も授業料無償化の制度があります。来年の四月からは保育料も無償化になると聞きました。僕は勉強が苦手ですが、このように制度を考えると、教育を受けられることはとてもありがたいことだとわかりました。

これらの財源は税金からなりたっていると考えたと税金

はとても大切だとわかりました。

ですが今までは、税金を払うことはなにか損をした気がしていました。百円の物は百八円払わないと買えません。さらに今年の十月からは消費税が十パーセントになると百十円払わないといけません。世間では増税に反対している人が多くいます。税のことを勉強するまでは、僕も反対でした。

何故、消費税を十パーセントに増税するのか調べてみました。そうしたら社会保障の財源確保のためと不景気でも安定的な税収が見込めるためだそうでした。六十五歳以上の人口の割合が全人口の二十一パーセントを占めている状態である超高齢化社会である日本。日本を支える現役世代の人口は年々減少している中で、

社会保障の財源確保は大きな課題となっています。特定の世代や人に負担が集中することなく国民みんなで平等に負担する消費税が、財源確保の手段として適切であると考えられています。所得税や法人税の税収が景気に左右されるのに対して、消費税は景気にあまり関係なく、地方消費税を除く十年間で毎年十兆円程度の税収が続いています。税金は何のためにあるかというと、国や地方公共団体が私たちに健康で文化的な生活を送るために公共サービスを提供するためにあります。

そう考えると税金はとても大切なものだとわかりました。だから国民全員で負担してよりよい社会を築いていけるように税金を正しく大切に使うてほしいです。

町立図書館貸出冊数

200万冊突破!

問い合わせ先 町立図書館(32)0800

平成15(2003)年に開館してから16年、おかげさまで貸出総冊数が延べ200万冊を超えました。去る11月9日(土)午後1時30分ごろにその瞬間を迎えて、くす玉をわってお祝いしました。

200万冊目を借りた本多桜子さんは、くす玉をわり、図書館長からプレゼントを受け取りました。本多さんは「200万冊目を借りられてとてもうれしいです」と笑顔で話してくれました。

これからも、地域の皆さまが利用しやすい図書館を目指してまいります。



くす玉わり



図書館長からのプレゼント

ふるさと納税の

包括支援協定締結

問い合わせ先 企画財政課地域振興係(32)3112

町では、株式会社ROOTS(東京都港区)と日本初の体験特化型返礼品を日付指定で即時予約できるふるさと納税ポータルサイト「さとこ」を利用した包括連携協定を11月7日付けで締結しました。

「さとこ」の特徴である体験特化型は、実際に寄付した自治体へ行き、さまざまな体験をすることでお返しするといったもので、本来のふるさと納税の理想的な在り方です。

株式会社ROOTSのシユレスタ翔太社長は「物が動くふるさと納税から人が動くふるさと納税にしていきたい」とし、小園町長は「町に来てもらうことで、関係人口を増やしたい」と話しました。

ふるさと納税の先進的な取り組みも視野に入れ、今後も本協定に基づき、活動してまいります。

